

彦根市立小中学校 適正規模・適正配置基本方針
～新たな時代に求められる教育活動の充実のための望ましい教育環境の在り方～

《社会全体の構造変化》

- 生成AIなどデジタル技術の発展⇒皆と同じことができること以上に、独自の発想や視点に価値観が置かれる
- 予測困難な時代、労働市場の流動化や就業期間の長期化⇒しなやかに「自らの人生を舵取りできる力」が不可欠
- 少子化に伴う入試による動機づけの変化、学習時間の減少⇒学びの動機づけをアップデートする必要
- 主体的に学びに向き合えていない子どもの増加
- 内なる国際化で人口の多様性が増す

(中央教育審議会 教育課程企画特別部会 論点整理)

【新しい彦根市教育大綱の基本方針】

心を磨き 可能性を引き出す 彦根の教育～主体的に
学びあい、自分らしく輝く未来をつくる～

自立して学び続ける人づくり

共感力のある人づくり

多様な他者と**協働**できる
人づくり

子ども主体の学びへ

- ✓ 子どもたちが自ら課題を発見し、主体的に学び合う探究的な学び
- ✓ 多様な人と協働して目標を実現する経験を積む社会とつながる協働的な学び

こうした教育を進めるために

- 一定規模の児童生徒の集団が確保され多様な他者と協働して学び合う機会を提供
- 経験年数や専門性等、バランスの取れた構成で教職員を適正に配置できる学校規模を維持

■【新たな時代に求められる望ましい教育環境】

- ・ 生成AIなどデジタル技術の発展は社会構造全体に変化をもたらし、将来の予測が困難な時代となっています。
- ・ 彦根市教育委員会では、新たな時代に求められる教育活動として、「自立」「共感」「協働」をキーワードに、一斉型の授業だけでなく、「子どもたちが自ら課題を発見し、主体的に学び合う探究的な学び」「多様な人と協働して目標を実現する経験を積む社会とつながる協働的な学び」に重点を置いた教育を目指します。
- ・ しかしながら、学級の児童生徒数が少ない場合、協働的な学習に制約が生じます。
- ・ こうした教育を進めるためには、
 - ◆一定規模の児童生徒の集団が確保され多様な他者と協働して学び合う機会を提供
 - ◆経験年数や専門性等、バランスの取れた構成で教職員を適正に配置できる学校規模を維持することが不可欠です。